

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
33	9.00	9.66		9.00	9.75		9.00	9.75	9.00~9.75m: スライム 中砂からなる。9.66~9.75mには花崗斑岩の礫を含む。
34	9.00	9.66	(地質名欄)中砂(改良土)	9.00	9.75	(地質名欄)コア欠如	9.00	9.75	(地質名欄)コア欠如
35	9.35	9.35	付近にφ5~10mmのモルタル片多く含む	-	-	-	9.35	9.35	9.35m付近に径5~10mmのモルタル片を多く含む。
36	9.66	9.84	モルタル砂岩状を呈する礫質モルタル。基盤岩と55°で接している。	9.75	9.84	モルタル砂岩状を呈する礫質モルタル。基盤岩と55°で接している。	9.75	9.84	9.75~9.84m: モルタル砂岩状を呈する礫質モルタル。基盤岩と傾斜55°で接している。
37	9.66	9.84	(地質名欄)モルタル層(改良土) (色調欄)2.5GY5/1 オリーブ灰	9.75	9.84	(地質名欄)モルタル(盛土) (色調欄)2.5GY5/1 オリーブ灰	9.75	9.84	(地質名欄)盛土 (色調欄)オリーブ灰
38	9.84	9.84	9.84mで着岩	-	-	-	-	-	下記に花崗斑岩の区間を示しているため着岩の記載はしない
39	-	-	φ1~5mm石英、φ1~7mm長石斑晶からなる花崗斑岩	9.84	60.00	花崗斑岩 φ1~5mm石英、φ1~7mm長石斑晶からなる花崗斑岩	9.84	60.00	9.84~60.00m: 花崗斑岩 斑晶は径1~5mmの石英、径1~7mmの長石からなる。
40	9.84	10.77	著しく軟化し、割れ目はほぼ消滅する。岩組織は残留している。φ10mm前後と人型の長石斑晶を多く含む。粘土化部や粘土脈は分布しない。消滅しかかった40~60° 割れ目が残存することがある。	9.84	10.77	著しく軟質化し、割れ目はほぼ消滅する。原岩組織は残留している。φ10mm前後と大型の長石斑晶を多く含む。粘土化部や粘土脈は分布しない。消滅しかかった40~60° 割れ目が残存することがある。	9.84	10.77	9.84~10.77m: 著しく軟質化し、割れ目はほぼ消滅する。原岩組織は残留する。径10mm前後の大型の長石斑晶を多く含む。粘土化部や粘土脈は分布しない。消滅しかかった傾斜40~60°の割れ目が残存することがある。
41	10.47	10.50	スライム	10.47	10.50	スライム 礫混じり砂質シルトからなる。	10.47	10.50	10.47~10.50m: スライム 礫混じり砂質シルトからなる。
42	10.47	10.50	(地質名欄)Gp (割れ目状態欄)ドラック (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)δランク (変質欄)2ランク	10.47	10.50	(地質名欄)コア欠如 (割れ目状態欄)削除 (コアの形状欄)削除 (コアの硬さ欄)削除 (風化欄)削除 (変質欄)削除	10.47	10.50	(地質名欄)コア欠如 (割れ目状態欄)削除 (コアの形状欄)削除 (コアの硬さ欄)削除 (風化欄)削除 (変質欄)削除
43	10.77	12.00	著しく軟化し、硬さEが主体であるが、割れ目は大半が残留している。また、岩組織も明瞭である。割れ目は40~60°とこれに斜交~直交する50~70°の2系の割れ目からなり、割れ目とその周辺が風化で砂状化する部分も含む。割れ目の一部はマンガン鉱染をうけ黒褐色化する。粘土脈は殆んどはさまない	10.77	12.00	著しく軟質化し、硬さEが主体であるが、割れ目は大半が残留している。また、原岩組織も明瞭である。割れ目は40~60°とこれに斜交~直交する50~70°の2系統の割れ目からなり、割れ目とその周辺が風化で砂状化する部分も含む。割れ目の一部はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。粘土脈は殆んどはさまない	10.77	12.00	10.77~12.00m: 著しく軟質化するが、割れ目の大半は残留する。また、原岩組織も明瞭である。割れ目は傾斜40~60°と、これと斜交~直交する50~70°の2系統が見られ、割れ目とその周辺が風化で砂状化する部分もある。割れ目の一部はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。粘土脈は殆んどはさまない。
44	11.90	11.90	45°の消滅しかかった割れ目そいに断片的に灰緑化する(緑泥石化と推定される。)	11.90	11.90	45°の消滅しかかった割れ目沿いに断片的に緑灰色化する(緑泥石化と推定される。)	11.90	11.90	11.90m: 傾斜45°の消滅しかかった割れ目沿いに断片的に緑泥石化により緑灰色化する。
45	12.00	12.13	スライム	12.00	12.13	スライム シルト質砂からなる。	12.00	12.13	12.00~12.13m: スライム シルト質砂からなる。
46	12.00	12.13	(地質名欄)スライム (岩級区分欄)D	12.00	12.13	(地質名欄)コア欠如 (岩級区分欄)空欄	12.00	12.13	(地質名欄)コア欠如 (岩級区分欄)空欄

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事			
		コア観察カードから正しく転記されているか? <div style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/></div>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <div style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/></div>			選定した記事内容			
47	12.13	13.03	12.13	13.03	12.13	13.03	12.13	13.03	12.13~13.03m: 原岩組織や割れ目の大半は残留するが、コア全体が著しく軟化する。傾斜30~40°の割れ目と低密着割れ目主体で、一部で60~70°の割れ目と斜交する。各割れ目治いは砂状化する。一部はマンガン鉱染を受け黒褐色化著しい。粘土化部はないが、12.13~12.17mは幅1~3mmの灰緑色粘土が網状に分布し、12.17m以深は割れ目の一部に厚さ1mm前後の粘土脈が挟まれる。いずれも軟質な粘土である。	12.13~13.03m: 原岩組織や割れ目の大半は残留するが、コア全体が著しく軟化する。傾斜30~40°の割れ目と低密着割れ目主体で、一部で60~70°の割れ目と斜交する。各割れ目治いは砂状化する。一部はマンガン鉱染を受け黒褐色化著しい。粘土化部はないが、12.13~12.17mは幅1~3mmの緑灰色粘土が網状に分布し、12.17m以深は割れ目の一部に厚さ1mm前後の粘土脈が挟まれる。いずれも軟質な粘土である。	-
48	12.57	12.61	12.57	12.61	12.57	12.61	12.57	12.61	12.57~12.61m: 上端45°、下端35°で緑泥石化により緑灰色を呈する。中央部に幅1~2mmの軟質な淡緑灰色粘土を伴う。	-	
49	13.03	13.32	13.03	13.32	13.03	13.32	13.03	13.32	13.03~13.32m: やや硬質で割れ目はマンガン鉱染を受ける。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
50	13.32	13.47	-	-	-	-	13.32	13.47	13.32~13.47m: 風化で砂状化している。	-	
51	13.47	13.94	13.47	13.94	13.47	13.94	13.47	13.94	13.47~13.94m: 傾斜50°の割れ目が平行に複数分布する。岩片はやや軟化するが、砂状化や粘土挟在はない。一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化するべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化するべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)			
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度				
記事			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容						
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>									
52	13.94	14.06	破砕帯(H-3d破砕帯)	13.94	14.06	破砕部(H-3d破砕帯)			●13.94～14.06m: 破砕部 13.94～13.98m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端60°, 下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5～10mmの粘土化した岩片主体で、岩片間の基質(砂主体)はマンガン鉱染で黒色化する。浅黄色を呈する。幅20～30mm。 13.98～14.00m: 粘土状部(Hc-1) 上端55°, 下端60°でともに直線的でシャープに連続。径1mm前後の石英粒を含む。軟質。浅黄色を呈する。幅10mm。 14.00～14.03m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端60°で直線的にシャープに連続。下端55°で凹凸している。径1mmの石英粒と径5mm前後の花崗斑岩の岩片を多く含む。硬質。浅黄色を呈する。幅20mm。 14.03～14.06m: 粘土状部(Hc-1) 上端55°, 下端60°で直線的に連続。軟質。浅黄色を呈する。幅10～15mm。			・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
53	13.94	13.98	Hj 上端60°, 下端55°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ5～10mmの粘土化した岩片主体で、岩片間の基質(砂主体)はマンガン鉱染で黒色化する。粘土混じり岩片状で、浅黄色(2.5Y 7/3)を呈する。厚さ20～30mm。	13.94	13.98	Hj 上端60°, 下端55°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ5～10mmの粘土化した岩片主体で、岩片間の基質(砂主体)はマンガン鉱染で黒色化する。粘土混じり岩片状を呈し、浅黄色(2.5Y 7/3)を呈する。厚さ20～30mm。硬質で、細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。						
54	13.98	14.00	Hc-1 上端55°, 下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1mm前後の石英粒を含む軟弱な浅黄色粘土で厚さ10mm。	13.98	14.00	Hc-1 上端55°, 下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1mm前後の石英粒を含む軟弱な浅黄色粘土からなる。厚さ10mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。						
55	14.00	14.06	Hb(主せん断面:14.06m) 上端60°, 下端60°で、上端は直線的でシャープ、下端は波打って連続。φ1mm石英粒とφ5mm前後のGp岩片を多く含む煤質粘土で軟弱。明オリブ灰(2.5GY 7/1)を呈し、厚さ20mm。	14.00	14.03	Hj(主せん断面:14.06m) 上端60°, 下端55°で、上端は直線的でシャープ、下端は凹凸している。φ1mm石英粒とφ5mm前後のGp岩片を多く含む粘土混じり岩片状で硬質。浅黄色(2.5Y 7/3)を呈する。厚さ20mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	13.94	14.06				
56				14.03	14.06	Hc-1 最新活動面14.06m 上端55°, 下端60°で、上端は凹凸あり、下端は直線的に連続。軟質な粘土。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。浅黄色を呈する。幅10～15mm。						
57	14.00	14.06	(破砕度区分欄)Hb	14.00	14.03	(破砕度区分欄)Hj	14.00	14.03	(破砕度区分)Hj			
58				14.03	14.06	(破砕度区分欄)Hc-1	14.03	14.06	(破砕度区分)Hc-1			
59	14.06	14.41	岩組織は残留するが、割れ目は大半が消滅している。残存する14.30m・60°割れ目をはじめ、岩片間を縫うように幅1～2mmの軟弱な白色～明黄褐色(10YR 7/6)の粘土が分布する。	14.06	14.41	原岩組織は残留するが、割れ目は大半が消滅している。残存する14.30m・60°割れ目をはじめ、岩片間を縫うように幅1～2mmの軟弱な白色～明黄褐色(10YR 7/6)の粘土が分布する。	14.06	14.41	14.06～14.41m: 原岩組織は残留するが、割れ目は大半が消滅する。残存する14.30mの傾斜60°の割れ目のほか、岩片間を縫うように幅1～2mmの軟弱な白～明黄褐色粘土が分布する。			

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
60	14.41	14.52	破砕帯(H-4' 破砕帯)	14.41	14.52	破砕帯(H-4' 破砕帯)			●14.41～14.52m: 破砕部 14.41～14.47m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端40°, 下端60° でともに直線的でシャープに連続。大半が粘土化する。灰白～にぶい橙色を呈する。幅20～30mm。 14.47～14.48m: 凝滞しり粘土状部(Hc-2) 上端60° で直線的にシャープに、下端60° で波打って連続。径1～2mmの石英粒、径2～3mmや長さ5～10mm、幅2～3mmの扁平な花崗斑岩の礫を含む。軟質。灰白色を呈する。幅15～18mm。 14.48～14.52m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端60°, 下端60° でともに直線的でシャープに連続。約60° の割れ目沿いに幅1～2mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む風化岩片からなる。明黄褐色を呈する。幅20mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
61	14.41	14.47	Hj 上端40°, 下端60° で、両者とも直線的でシャープに連続。大半が粘土化した粘土混じり岩片状を呈す。色調は灰白色(7.5YR 8/2)～にぶい橙(7.5YR 7/4)で、厚さ20～30mm。	14.41	14.47	Hj 上端40°, 下端60° で、両者とも直線的でシャープに連続。やや軟質。大半が粘土化した粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰白色(5YR 8/2)～にぶい橙色(7.5YR 7/4)で、厚さ20～30mm。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。				
62	14.47	14.48	Hc-2(主せん断面・14.47m) 上端60°, 下端60° で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続。φ1～2mmの石英粒、φ2～3mmや長さ5～10mm幅2～3mmの扁平Gp礫を含む灰白色(5Y 7/2)の軟弱粘土。厚さ15～18mm	14.47	14.48	Hc-2(最新活動面・14.47m) 上端60°, 下端60° で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続。φ1～2mmの石英粒、φ2～3mmや長さ5～10mm幅2～3mmの扁平Gp礫を含む灰白色(5Y 7/2)の軟質凝滞しり粘土。厚さ15～18mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	14.41	14.52		
63	14.48	14.52	Hj 上端60°, 下端60° で、両者とも直線的でシャープに連続。約60° の割れ目沿いに幅1～2mmの軟質な灰白色(5Y 7/2)粘土脈を挟む風化岩片で、粘土混じり岩片状を呈す。全体的色調は明黄褐色(10YR 7/6)で、厚さは20mm。	14.48	14.52	Hj 上端60°, 下端60° で、両者とも直線的でシャープに連続。約60° の割れ目沿いに幅1～2mmの軟質な灰白色(5Y 7/2)粘土脈を挟む風化岩片で、粘土混じり岩片状を呈す。全体的にやや硬質で、色調は明黄褐色(10YR 7/6)を呈する。厚さは20mm。 含まれる細粒部の連続性・直線性は乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。				
64	14.52	22.47	比較的割れ目が少ないコア形状IVからなる。区間中央部の16.48～20.08mと最下部の21.75～22.47mは一部硬さBを混える硬さCで、風化は弱い。これを除く14.52～16.48mと20.08～22.47mはやや風化が進み、硬さ「D」と軟化する。全区間で粘土化や粘土脈の分布は少なく、変質は弱い。割れ目は10～40° と緩傾斜のものが主体で部分的に、これら緩傾斜割れ目に60～80° 割れ目～低密着割れ目が交差している。	14.52	22.47	比較的割れ目が少ないコア形状IVからなる。区間中央部の16.48～20.08mと最下部の21.75～22.47mは一部硬さBを混える硬さCで、風化は弱い。これを除く14.52～16.48mと20.08～21.75mはやや風化が進み、硬さ「D」と軟化する。全区間で粘土化や粘土脈の分布は少なく、変質は弱い。割れ目は10～40° と緩傾斜のものが主体で部分的に、これら緩傾斜割れ目に60～80° 割れ目～低密着割れ目が交差している。	14.52	22.47	14.52～22.47m: 比較的割れ目が少ない。16.48～20.08mと21.75～22.47m間は風化が弱い。これを除く区間はやや風化が進み軟化する。全区間で粘土化や粘土脈の分布は少なく、変質は弱い。割れ目は傾斜10～40° が主体で、部分的にこれに交差する60～80° の割れ目や低密着割れ目が認められる。 ・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない ・風化が進んだ区間は、風化が弱い区間を区間であるため、区間深度の記載は削除した	
65	16.17	16.28	割れ目ぞいに風化・砂状化が進み、φ10～30mmの礫状コアに砕けている。	16.17	16.28	割れ目沿いに風化・砂状化が進み、φ10～30mmの礫状コアを呈する。	16.17	16.28	16.17～16.28m: 割れ目沿いに風化・砂状化が進み、径10～30mmの礫状コアを呈する。	
66	16.48	16.48	58° 割れ目に厚さ2～4mmの軟弱な灰白色粘土脈を挟む。	16.48	16.48	58° 割れ目に厚さ2～4mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。	16.48	16.48	16.48m: 傾斜58° で幅2～4mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。	
67	16.40	17.68	間には硬さ「B」の硬質岩片も多く含む。割れ目は直線的でシャープなものも多く、風化砂や変質粘土脈などの挟雑物も分布しない。	16.40	17.68	間には硬さ「B」の硬質岩片も多く含む。割れ目は直線的でシャープなものも多く、風化砂や変質粘土脈などの挟雑物も分布しない。	16.48	17.68	16.48～17.68m: 硬質岩片を多く含む。割れ目は直線的でシャープなものが多く、風化砂や変質粘土脈などの挟雑物も分布しない。 ・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
68	16.48	17.68	(割れ目状態欄)cランク (コアの硬さ欄)Cランク (岩級区分欄)CL	16.48	17.68	(割れ目状態欄)bランク (コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM	16.48	17.68	(割れ目状態欄)bランク (コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM	
69	18.05	21.00	割れ目ぞいに薄くマンガン鉱染を受ける。	18.05	21.00	割れ目沿いに薄くマンガン鉱染を受ける。	18.05	21.00	18.05～21.00m: 割れ目沿いに薄くマンガン鉱染を受ける。	
70	19.10	19.22	割れ目ぞいに薄く砂状化する。	19.10	19.22	割れ目沿いに薄く砂状化する。	19.10	19.22	19.10～19.22m: 割れ目沿いに薄く砂状化する。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 選定した記事内容		
71	20.77	20.77	50° 割れ目に幅1~2mmの明黄褐色(10YR 7/6)の軟弱粘土脈をはさむ。粘土脈の上・下はマンガン鉱染で黒褐色化する。	20.77	20.77	50° 割れ目に幅1~2mmの明黄褐色(10YR 7/6)の軟弱粘土脈を挟む。粘土脈の上・下はマンガン鉱染で黒褐色化する。	20.77	20.77	20.77m: 傾斜50° で幅1~2mmの明黄褐色の軟弱粘土脈を挟む。粘土脈の上・下はマンガン鉱染で黒褐色化する。	-
72	21.00	22.30	40~60° 割れ目、低密着割れ目がほぼ平行に分布する。粘土脈の挟はないが、風化で薄く砂状化する割れ目もある。	21.00	22.30	40~60° 割れ目、低密着割れ目がほぼ平行に分布する。粘土脈の挟はないが、風化で薄く砂状化する割れ目もある。	21.00	22.30	21.00~22.30m: 傾斜40~60° の割れ目、低密着割れ目がほぼ平行に分布する。粘土脈の挟はないが、風化で薄く砂状化する割れ目もある。	-
73	21.18	21.18	21.18m・60°、21.61m・48° に幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布するが、このうち、後者の石英脈は直交する55° 割れ目で切られ、変位している(変位先はコア中には存在しない)	21.18	21.18	21.18m・60°、21.61m・48° に幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布するが、このうち、後者の石英脈は直交する55° 割れ目で止まっている。切られ、変位している(変位先はコア中には存在しない)	21.18	21.18	21.18m・60°、21.61m・48° に幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布するが、後者の石英脈は直交する傾斜55° の割れ目で止まっている。	-
74	21.75	22.47	(岩級区分欄)CM	21.75	22.47	(岩級区分欄)OL	21.75	22.47	(岩級区分欄)OL	-
75	22.28	22.28	58° 割れ目周辺1cmは淡緑灰色化(緑泥石化)、φ1mmの雲母を伴う。	22.28	22.28	58° 割れ目周辺1cmは淡緑灰色化(緑泥石化)、φ1mmの白雲母を伴う。	22.28	22.28	22.28m: 傾斜58° の割れ目周辺幅1cmが緑泥石化により淡緑灰色化する。径1mmの白雲母を伴う。	-
76	22.47	22.77	(岩級区分欄)CM	22.47	22.77	(岩級区分欄)CH	22.47	22.77	(岩級区分欄)CH	-
77	22.47	23.77	割れ目は少なくなり、コア形状皿主体で、22.47~22.77mと23.60~23.77mは硬さ「C」、これ以外は硬さ「B」と硬質部が主体である。50~60° 割れ目が主体で、硬さ「C」区間では、割れ目の一部はごく薄く砂状化するが、硬さ「B」では砂状化しない硬質割れ目である。割れ目は粘土脈ははさまない。	22.47	23.77	割れ目は少なくなり、コア形状皿主体で、22.47~22.77mと23.60~23.77mは硬さ「C」、これ以外は硬さ「B」と硬質部が主体である。50~60° 割れ目が主体で、硬さ「C」区間では、割れ目の一部はごく薄く砂状化するが、硬さ「B」では砂状化は見られない。割れ目に粘土脈は挟まない。	22.47	23.77	22.47~23.77m: 割れ目は少なくなり、やや硬質~硬質部からなる。傾斜50~60° の割れ目が主体で、やや硬質の区間では、割れ目の一部はごく薄く砂状化するが、硬質の区間では砂状化は見られない。割れ目に粘土脈は挟まない。	記事欄以外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない
78	22.77	22.77	55° 割れ目は交差する割れ目を切っている。	22.77	22.77	55° 割れ目は交差する割れ目を止めている。一部、細いマンガン汚染の筋が横断している。切っている。割れ目に細粒部が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	22.77	22.77	22.77m: 傾斜55° の割れ目は交差する割れ目を止めている。一部、細いマンガン汚染の筋が横断する。割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
79	22.78	23.40	φ2~3mmの黒雲母斑晶が目立つ。	-	-	-	22.78	23.40	22.78~23.40m: 径2~3mmの黒雲母の斑晶が目立つ。	-
80	23.60	25.00	(割れ目状態欄)記載なし	23.60	25.00	(割れ目状態欄)cランク	23.60	25.00	(割れ目状態欄)cランク	-
81	23.77	24.94	互いに斜交~直交する50° 前後の割れ目が主体である。風化で割れ目の一部は薄く砂状化することがある。粘土化部や粘土脈は分布しない。	-	-	-	23.77	24.94	23.77~24.94m: 互いに斜交~直交する傾斜50° 前後の割れ目が主体である。風化で割れ目の一部は薄く砂状化することがある。粘土化部や粘土脈は分布しない。	-
82	24.94	25.29	上位に比べ割れ目が多くなり、割れ目ぞいに薄く砂状化することが多い。	24.94	25.29	上位に比べ割れ目が多くなり、割れ目ぞいに薄く砂状化することが多い。	24.94	25.29	24.94~25.29m: 上位に比べ割れ目が多くなり、割れ目ぞいに薄く砂状化することが多い。	-
83	25.29	26.97	50~70° 割れ目を主体とし、一部でこれらに斜交~直交する50~60° 割れ目が分布する。上位に比べ、風化は弱くなるが、一部の割れ目では薄く砂状化する。粘土化部はなく、粘土脈は幅1~5mmの軟弱な粘土ないし粘土脈が割れ目に数箇所はさまれるが分布は少ない。	25.29	26.97	50~70° 割れ目を主体とし、一部でこれらに斜交~直交する50~60° 割れ目が分布する。上位に比べ、風化は弱くなるが、一部の割れ目では薄く砂状化する。粘土化部はなく、粘土脈は幅1~5mmの軟弱な粘土ないし粘土脈が割れ目に数箇所はさまれるが分布は少ない。	25.29	26.97	25.29~26.97m: 傾斜50~70° の割れ目主体で、一部でこれと斜交~直交する50~60° の割れ目が見られる。上位に比べ風化は弱くなるが、一部の割れ目では薄く砂状化する。粘土化部はなく、数箇所の割れ目に幅1~5mmの軟弱粘土脈を挟む。	-
84	25.94	25.94	20° 割れ目ぞいに幅20mmはマンガン鉱染で黒褐色化する。	25.94	25.94	20° 割れ目ぞいに幅20mmはマンガン鉱染で黒褐色化する。	25.94	25.94	25.94m: 傾斜20° で幅20mmがマンガン鉱染で黒褐色化する。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
85	26.14	26.14	58° 割れ目の一部に幅1~5mmの軟弱な灰白色粘土が分布。割れ目ぞい全体はマンガン鉱染で黒褐色化する。	26.14	26.14	58° 割れ目の一部に幅1~5mmの軟弱な灰白色粘土が分布。割れ目ぞい全体はマンガン鉱染で黒褐色化する。	26.14	26.14	26.14m: 傾斜58° の割れ目の一部に幅1~5mmの軟弱な灰白色粘土が分布する。割れ目ぞい全体はマンガン鉱染で黒褐色化する。	-
86	26.34	26.34	45° の低密着割れ目は幅0.5mmの軟弱な灰白色粘土をはさむ。	26.34	26.34	45° の低密着割れ目は幅0.5mmの軟弱な灰白色粘土を挟む。	26.34	26.34	26.34m: 傾斜45° で幅0.5mmの軟弱な灰白色粘土を挟む。	-
87	26.72	-	26.72m以深は上位に比べ、硬くなる(硬さC)	-	-	-	26.72	-	26.72m以深は上位に比べ、硬くなる(硬さC)。	-
88	26.97	27.26	上端45°、下端50°の割れ目に囲まれ、風化で全体が軟化する。粘土化や粘土脈は分布しない。	-	-	-	26.97	27.26	26.97~27.26m: 上端45°、下端50°の割れ目間は風化で全体が軟質化する。粘土化や粘土脈は分布しない。	-
89	27.26	28.43	最上位側の27.26~27.64mは硬さCで残留するが、27.64m以深は硬さDに軟化する。割れ目は残留し、40~60°が主体で同角の低密着割れ目も多い。割れ目や低密着割れ目ぞいは薄く砂状化することが多いが、粘土部や粘土脈の分布は少ない。	27.26	28.43	最上位側の27.26~27.64mは硬さCで残留するが、27.64m以深は硬さDに軟化する。割れ目は残留し、40~60°が主体で同角の低密着割れ目も多い。割れ目や低密着割れ目ぞいは薄く砂状化することが多いが、粘土部や粘土脈の分布は少ない。	27.26	28.43	27.26~28.43m: 27.64m以浅はやや硬質であるが、それ以深は軟質化する。割れ目は残留し、傾斜40~60°のものが主体で同角の低密着割れ目も多い。割れ目や低密着割れ目ぞいは薄く砂状化することが多いが、粘土部や粘土脈の分布は少ない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
90	27.70	27.70	60° 割れ目ぞいの幅5mmは粘土化するが、これは粘土化した長石濃集部である。	27.70	27.70	60° 割れ目ぞいの幅5mmは粘土化するが、これは粘土化した長石濃集部である。	27.70	27.70	27.70m: 傾斜60° の割れ目ぞいで、幅5mm程度は長石が粘土化する。	-
91	28.43	28.43	60° 割れ目は幅1~2mmの軟弱粘土脈をはさむが、マンガン鉱染により褐色化し、粘土の色調は不明。	28.43	28.43	60° 割れ目は幅1~2mmの軟弱粘土脈を挟むが、マンガン鉱染により褐色化し、粘土の色調は不明。	28.43	28.43	28.43m: 傾斜60° で幅1~2mmの軟弱な粘土脈を挟むが、マンガン鉱染により褐色化し、粘土の色調は不明である。	-
92	28.43	29.31	風化のため割れ目の一部は消滅しかかっている。割れ目は上位と同様40~60°が主体であるが、一部でこれらと斜交~直交する40~50°の割れ目も分布する。また、これらの低密着割れ目も多い。割れ目ぞいに薄く砂状化するものも多いが、粘土化や粘土脈の挟在は少ない。	28.43	29.31	風化のため割れ目の一部は消滅しかかっている。割れ目は上位と同様40~60°が主体であるが、一部でこれらと斜交~直交する40~50°の割れ目も分布する。また、これらの低密着割れ目も多い。割れ目ぞいに薄く砂状化するものも多いが、粘土化や粘土脈の挟在は少ない。	28.43	29.31	28.43~29.31m: 風化のため割れ目の一部は消滅しかかっている。割れ目は上位と同様に傾斜40~60°のものが主体であるが、一部でこれらと斜交~直交する40~50°の割れ目も分布する。また、これらの低密着割れ目も多い。割れ目ぞいに薄く砂状化するものも多いが、粘土化や粘土脈の挟在は少ない。	-
93	28.57	28.72	28.57m・45°、28.72m・55° 割れ目は幅2~3mmの軟弱な灰白色粘土脈をはさむ。	28.57	28.72	28.57m・45°、28.72m・55° 割れ目は幅2~3mmの軟弱な灰白色粘土脈を挟む。	28.57	28.72	28.57m・45°、28.72m・55° の割れ目は幅2~3mmの軟弱な灰白色粘土脈を挟む。	-
94	29.31	29.95	上位と硬さはほぼ同程度であるが割れ目は少なくなる。風化で割れ目が消滅していることが多い。	29.31	29.95	上位と硬さはほぼ同程度であるが割れ目は少なくなる。風化で割れ目が消滅していることが多い。	29.31	29.95	29.31~29.95m: 上位と硬さはほぼ同程度であるが、割れ目は少なくなる。風化で割れ目が消滅していることが多い。	-
95	29.95	33.30	上位側32.63m以浅の硬さDと、下位側32.68m以深の硬さEからなり、両者とも風化により軟化~著しく軟化している。割れ目は32.63m以浅では残留しているが、32.63m以深では一部消滅し、一部残留している。割れ目は20~40°とこれらに斜交~直交する50~70°の割れ目と同角の低密着割れ目が主体である。32.63m以浅では一部の割れ目ぞいが薄く砂状化することが多い。32.63m以深では割れ目や周辺部まで砂状化が進むことが多い。粘土化部や粘土脈の分布はわずかである。また、部分的に割れ目ぞいにマンガン鉱染をうけ、黒褐色化する。	29.95	33.30	上位側32.63m以浅の硬さDと、下位側32.68m以深の硬さEからなり、両者とも風化により軟化~著しく軟化している。割れ目は32.63m以浅では残留しているが、32.63m以深では一部消滅し、一部残留している。割れ目は20~40°とこれらに斜交~直交する50~70°の割れ目と同角の低密着割れ目が主体である。32.63m以浅では一部の割れ目ぞいが薄く砂状化することが多い。32.63m以深では割れ目や周辺部まで砂状化が進むことが多い。粘土化部や粘土脈の分布はわずかである。また、部分的に割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	29.95	33.30	29.95~33.30m: 全体に風化により軟化~著しく軟質化する。32.63m以浅では割れ目が残留し、一部の割れ目ぞいが薄く砂状化するが、それ以深では割れ目は一部消滅し、割れ目や周辺部まで砂状化が進む。割れ目は傾斜20~40°とこれらに斜交~直交する50~70°の割れ目及び低密着割れ目が主体である。粘土化部や粘土脈の分布はわずかである。また、部分的に割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない ・32.63m以浅と32.63m以深の情報をまとめて記載した
96	30.24	30.24	60° 割れ目に褐色の固結粘土。幅2mmで断片的にはさむ。	30.24	30.24	60° 割れ目に褐色の硬質な粘土を挟む。幅2mmで断片的に挟む。上端側幅5mmにマンガン濃集部を伴う。	30.24	30.24	30.24m: 傾斜60° で幅2mmの褐色の硬質な粘土を断片的に挟む。上端側幅5mmにマンガン濃集部を伴う。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
97	30.74	30.74	-	-	-	30.74	30.74	30.74mの傾斜80~85°で湾曲した割れ目と30.85mの傾斜55°の割れ目で囲まれた部分は周囲より風化が進み砂状化する。	-	
98	30.85	30.85	30.85	30.85	55° 割れ目は風化でにぶい黄橙色の幅1~2mmの軟弱粘土脈をはさむ。	30.85	30.85	30.85m: 傾斜55° の割れ目は風化でにぶい黄橙色の幅1~2mmの軟弱粘土脈をはさむ。	-	
99	32.30	32.30	32.30	32.30	60° はせん断性割れ目で、交差する30° 割れ目を切っている(変位量10mm、左ズレ)。割れ目は幅1mmのにぶい黄橙色の軟弱粘土脈をはさむ。	32.30	32.30	60° はせん断性割れ目で、交差する30° 割れ目を止めている。切っている(変位量10mm、左ズレ)。割れ目は幅1mmのにぶい黄橙色の軟弱粘土脈をはさむ。 割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	
100	32.63	32.63	32.63	32.63	55° はせん断性割れ目で、直交する45° 割れ目を切っている(変位量10mm、左ズレ)。割れ目は幅1~2mmの褐色軟弱粘土脈をはさむ。	32.63	32.63	55° はせん断性割れ目で、直交する45° 割れ目を止めている。切っている(変位量10mm、左ズレ)。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。幅1~2mmの褐色軟弱粘土脈をはさむが、不連続である。	-	
101	32.63	-	32.63	33.00	32.63m以深は33.00mまで割れ目は残留するが、以深はほぼ消滅するか、割れ目の一部が残留するのみである。	32.63	33.00	32.63m~33.00m: 割れ目は残留するが、以深はほぼ消滅するか、割れ目の一部が残留するのみである。	-	
102	33.00	33.30	-	-	割れ目、低密着割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。	33.00	33.30	33.00~33.30m: 割れ目、低密着割れ目に沿ってマンガン鉱染で黒褐色化する。	-	
103	33.30	34.23	33.30	34.23	岩組織と割れ目はほぼ消滅している。全体に40~50°、幅1~8mmで軟弱なにぶい黄橙(10YR 7/4)の粘土脈が分布する。	33.30	34.23	33.30~34.23m: 原岩組織と割れ目はほぼ消滅する。全体に傾斜40~50°で幅1~8mmの軟弱なにぶい黄橙色粘土脈が分布する。	-	
104	33.40	33.23	33.40	34.23	40~50° の割れ目の一部、低密着割れ目の一部がわずかに残留し、その一部は幅1~2mmで軟弱なにぶい黄橙(10YR7/4)の粘土脈をはさむことが多い。	33.40	34.23	40~50° の割れ目の一部、低密着割れ目の一部がわずかに残留し、その一部は幅1~2mmで軟弱なにぶい黄橙(10YR7/4)の粘土脈をはさむことが多い。	-	
105	33.91	33.91	33.91	33.91	32° 幅2~8mmでφ1~2mm石英粒、φ5mmの風化~粘土化した岩片を含むやや締った灰黄色粘土脈が分布する。	33.91	33.91	33.91m: 傾斜32° で幅2~8mmの径1~2mmの石英粒や径5mmの風化~粘土化した岩片を含むやや硬質な灰黄色粘土脈が分布する。	-	
106	34.17	34.23	-	-	マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	34.17	34.23	34.17~34.23m: マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	-	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化するべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化するべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容		
107	34.23	34.52	破砕帯(D-1破砕帯)	34.23	34.52	破砕帯(D-1破砕帯)			●34.23～34.52m: 破砕部 34.23～34.39m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端50°, 下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5～10mmの粘土化～硬さDの岩片と岩片間を幅1～2mmの灰黄色の軟弱粘土が網状に分布する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。灰黄～灰黄褐色を呈する。 また、34.30mには傾斜30°で幅1～2mmの灰黄色粘土脈を伴うせん断面がある。 34.39～34.40m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜55°で直線的にシャープに連続する。径1mmの石英粒を含む。 軟質。白色～灰黄色を呈する。幅5～7mm。 34.40～34.52m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端55°, 下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5～10mmの硬さDないし粘土化した岩片が主体である。岩片は岩組織が消えている。岩片間の一部に幅0.5～1mmの軟質粘土が分布する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体の色調は灰黄褐色(10YR 4/2)で、厚さは130mm(コア長)である。	
108	34.23	34.39	Hj 上端50°, 下端55°で両者とも直線的でシャープに連続。φ5～10mmの粘土化～硬さDの岩片と岩片間を幅1～2mmの灰黄色の軟弱粘土が網状に分布し、粘土混り岩片状を呈する。 また、34.30mには30°幅1～2mmの前記粘土脈を伴うせん断面もある。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化し、全体の色調は灰黄(2.5Y 7/2)～灰黄褐(10YR 4/2)で、厚さは160mm(コア長)である。	34.23	34.39	Hj 上端50°, 下端55°で両者とも直線的でシャープに連続。やや硬質で、φ5～10mmの粘土化～硬さDの岩片と岩片間を幅1～2mmの灰黄色の軟質粘土が網状に分布し、粘土混り岩片状を呈する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。全体の色調は灰黄(2.5Y 7/2)～灰黄褐色(10YR 4/2)を呈する。厚さは160mm(コア長)である。 また、34.30mには30°幅1～2mmのやや軟質な灰黄色粘土脈を伴うせん断面があるが、粘土の連続性及び直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	34.23	34.52	●34.23～34.52m: 破砕部 34.23～34.39m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端50°, 下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5～10mmの粘土化～硬さDの岩片と岩片間を幅1～2mmの灰黄色の軟質粘土が網状に分布する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。灰黄～灰黄褐色を呈する。 また、34.30mには傾斜30°で幅1～2mmの灰黄色粘土脈を伴うせん断面がある。 34.39～34.40m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜55°で直線的にシャープに連続する。径1mmの石英粒を含む。 軟質。白色～灰黄色を呈する。幅5～7mm。 34.40～34.52m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端55°, 下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5～10mmの硬さDないし粘土化した岩片が主体である。岩片は岩組織が消えている。岩片間の一部に幅0.5～1mmの軟質粘土が分布する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に灰黄褐色を呈する。	
109	34.39	34.40	Hc-1(主せん断面:34.39m) 55°で直線的でシャープに連続する軟弱な白色～灰黄色粘土脈でφ1mmの石英粒を含む。厚さは5～7mmである。	34.39	34.40	Hc-1(最新活動面 34.40m) 55°で直線的でシャープに連続する軟弱な白色～灰黄色粘土脈でφ1mmの石英粒を含む。厚さは5～7mmである。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	34.23	34.52		
110	34.40	34.52	Hj 上端55°, 下端55°で両者とも直線的でシャープに連続。φ5～10mmの硬さDないし粘土化した岩片が主体である。岩片は岩組織が消えている。岩片間の一部に幅0.5～1mmの軟弱な粘土が分布し、粘土混り岩片状を呈する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体の色調は灰黄褐色(10YR 4/2)で、厚さは130mm(コア長)である。	34.40	34.52	Hj 上端55°, 下端55°で両者とも直線的でシャープに連続。φ5～10mmの硬さDないし粘土化した岩片が主体である。岩片は岩組織が消えている。岩片間の一部に幅0.5～1mmの軟質粘土が局所的に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体の色調は灰黄褐色(10YR 4/2)で、厚さは130mm(コア長)である。 やや硬質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。				
111	34.52	35.81	30～60°の割れ目、低密着割れ目が多い。このうち35.14～35.27mでは40°前後の割れ目が10～20mm間隔で平行に分布し、マンガン鉱染を受け、黒褐色化している。上記各割れ目には幅1～3mmの軟弱な白色～灰黄色粘土脈を挟むことが多い。	34.52	35.81	30～60°の割れ目、低密着割れ目が多い。このうち35.14～35.27mでは40°前後の割れ目が10～20mm間隔で平行に分布し、マンガン鉱染を受け、黒褐色化している。上記各割れ目には幅1～3mmの軟質粘土脈を挟むことが多い。	34.52	35.81	34.52～35.81m: 傾斜30～60°の割れ目、低密着割れ目が多い。35.14～35.27mでは傾斜40°前後の割れ目が10～20mm間隔で平行に分布し、マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。各割れ目には幅1～3mmの軟質粘土脈を挟むことが多い。	
112	-	-	-	34.60	34.60	60°の割れ目に幅1～2mmの灰白色粘土を挟む。	34.60	34.60	34.60m: 傾斜60°で幅1～2mmの灰白色粘土を挟む。	
113	-	-	-	34.80	34.95	マンガン、灰白色粘土が網目状に分布する。	34.80	34.95	34.80～34.95m: マンガンや灰白色粘土が網目状に分布する。	
114	35.71	35.81	(変質欄)3ランク	35.71	35.81	(変質欄)3ランク	35.71	35.81	(変質欄)3ランク	
115	35.81	36.53	一部、硬さBも含み、全体が硬質である。40～60°割れ目が主体で、一部で薄く砂状化するが、粘土脈は挟まない。	35.81	36.53	一部、硬質部も含み、全体がやや硬質である。40～60°割れ目が主体で、一部で薄く砂状化するが、粘土脈は挟まない。	35.81	36.53	35.81～36.53m: 一部、硬質部も含み、全体がやや硬質である。傾斜40～60°の割れ目が主体で、一部で薄く砂状化するが、粘土脈は挟まない。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
116	36.53	36.82	60°~70° 割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で分布しクラッキーとなる。	36.53	36.82	60°~70° 割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で分布し 岩片状を呈する 。	36.53	36.82	36.53~36.82m:傾斜60°~70° の割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で分布し、コアは岩片状となる。	-
117	36.67	36.67	50° 割れ目。上盤側5~10mmは淡灰緑色化(緑泥石化)。粘土は伴わない。φ0.5mm以下と微小な雲母あるいは金属鉱物が晶出している。	36.67	36.67	50° 割れ目。上盤側5~10mmは淡緑灰色化(緑泥石化)。粘土は 伴わない 。φ0.5mm以下と微小な白雲母あるいは金属鉱物が晶出している。	36.67	36.67	36.67m:傾斜50° の割れ目の上端側は幅5~10mmで緑泥石化により淡緑灰色化するが、粘土は伴わない。径0.5mm以下の微細な白雲母や金属鉱物が晶出する。	-
118	36.82	44.01	40°~60° 割れ目を主体とする。一部でこれらに斜交~直交する60°~80° 割れ目が分布する。38.34~38.74mでは割れ目ぞいに風化で褐色化が進むが、軟化は伴わない。硬さは概ねCで、一部で硬さBを伴う。粘土化や粘土脈は幅1~2mmの軟弱ないし固結状の白色~風化・明黄褐色(10YR 6/6)を伴うが、分布は少ない。	36.82	44.01	40°~60° 割れ目を主体とする。一部でこれらに斜交~直交する60°~80° 割れ目が分布する。38.34~38.74mでは割れ目ぞいに風化で褐色化が進むが、軟質化は 伴わない 。全体にやや硬質で、一部で硬質部を伴う。粘土化や粘土脈は幅1~2mmの軟質ないし硬質の白色~風化・明黄褐色(10YR 6/6)を伴うが、分布は少ない。	36.82	44.01	36.82~44.01m:傾斜40°~60° の割れ目を主体とする。一部でこれらに斜交~直交する60°~80° の割れ目が分布する。38.34~38.74mでは割れ目沿いに風化で褐色化が進むが、軟質化は伴わない。全体にやや硬質で、一部で硬質部を伴う。粘土化や粘土脈は幅1~2mmの軟質ないし硬質の白色~風化して明黄褐色粘土を伴うが、分布は少ない。	-
119	37.69	37.69	80° はせん断性割れ目で、37.77m付近で幅1mm、45° の石英脈を切っている(変位量3mm左ズレ)。割れ目には幅1mm以下の固結、風化した黄褐色粘土をはさむ。	37.69	37.69	80° は せん断性 割れ目で、37.77m付近で幅1mm、45° の石英脈を 止めている 。切っている(変位量3mm左ズレ)。割れ目には幅1mm以下の 固結・風化した不連続な黄褐色粘土を挟む 。割れ目周辺の岩盤は褐色化しているが、 原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない 。	37.69	37.69	37.69m:傾斜80° の割れ目は、37.77m付近で傾斜45° で幅1mmの石英脈を止めている。割れ目には幅1mm以下の不連続な黄褐色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤は褐色化しているが、原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
120	38.34	38.41	45° 割れ目が5~30mm間隔で平行に入りクラッキー。下端付近の38.38~下端部の38.41mでは40° 割れ目ぞいに幅1~2mmの軟弱な灰白色粘土脈をはさみ、粘土脈周縁数mmは淡灰緑化する。	38.34	38.41	45° 割れ目が5~30mm間隔で平行に入り 岩片化 している。下端付近の38.38~ 下端部の 38.41mでは40° 割れ目沿いに幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈を 挟み 、粘土脈周縁数mmは 淡緑灰色化する 。	38.34	38.41	38.34~38.41m:傾斜45° の割れ目が5~30mm間隔で平行に分布し岩片化する。38.38~38.41mでは傾斜40° の割れ目沿いに幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈を挟み、粘土脈周縁数mmが淡緑灰色化する。	-
121	38.41	38.72	40° 割れ目周辺が風化~褐色化する。	-	-	-	38.41	38.72	38.41~38.72m:傾斜40° の割れ目周辺が風化~褐色化する。	-
122	39.00	40.09	(コアの形状欄)IVランク	39.00	40.09	(コアの形状欄) Vランク	39.00	40.09	(コアの形状欄) Vランク	-
123	39.53	39.53	40° 幅1~2mm石英脈が母岩に密着して連続	-	-	-	39.53	39.53	39.53m:傾斜40° で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-
124	39.82	39.82	45° 割れ目に幅5mmの軟弱な灰白色(7.5YR 8/2)粘土脈をはさむ	39.82	39.82	45° 割れ目に幅5mmの軟質な灰白色(7.5YR 8/2)粘土脈を 挟む 。 周辺幅数mmは褐色化が顕著である 。	39.82	39.82	39.82m:傾斜45° で幅5mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。周縁幅数mmは褐色化が顕著である。	-
125	40.38	40.60	(コアの形状欄)IVランク	40.38	40.60	(コアの形状欄) Vランク	40.38	40.60	(コアの形状欄) Vランク	-
126	40.87	44.01	40°~50° 割れ目がほぼ平行に3~10cm間隔で規則的に分布する。割れ目の面は薄く褐色化するのみで、砂状化は伴わない。また、一部で幅1mm以下の軟質粘土脈をはさむが分布は少ない。	40.87	44.01	40°~50° 割れ目が ほぼ平行に 3~10cm間隔で規則的に分布する。割れ目の面は薄く褐色化するのみで、砂状化は伴わない。また、一部で幅1mm以下の軟質粘土脈を 挟む が分布は少ない。	40.87	44.01	40.87~44.01m:傾斜40°~50° の割れ目がほぼ平行に3~10cm間隔で規則的に分布する。割れ目の面は薄く褐色化するのみで砂状化は伴わない。一部で幅1mm以下の軟質粘土脈を挟むが、分布は少ない。	-
127	40.61	40.61	45° 割れ目、下盤側の一部は幅5mmで淡緑灰色化(緑泥石化)し、幅2mmの石英脈を伴う。	40.61	40.61	45° 割れ目、 下端側 の一部は幅5mmで淡緑灰色化(緑泥石化)し、幅2mmの石英脈を伴う。	40.61	40.61	40.61m:傾斜45° の割れ目の下端側の一部は幅5mmで緑泥石化により淡緑灰色化し、幅2mmの石英脈を伴う。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
128	40.92	40.95	40.92m・55°～40.95m・60° は一部砂状化し、幅0.5mmの軟弱な白色粘土を挟む。	40.92	40.95	40.92m・55°～40.95m・60° は一部砂状化し、幅0.5mmの軟弱な白色粘土を挟む。	40.92	40.95	40.92m・55°～40.95m・60° は一部砂状化し、幅0.5mmの軟弱な白色粘土を挟む。	-
129	41.40	41.57	41.40m・45°、41.57m・50° は、いずれもほぼ直交する55° 割れ目を切っているが、変位量は不明。	41.40	41.57	41.40m・45°、41.57m・50° の割れ目は、いずれもほぼ直交する55° 割れ目を止めている。切っているが、変位量は不明。いずれの割れ目にも挟在物は見られず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	41.40	41.57	41.40m・45°、41.57m・50° の割れ目は、いずれもほぼ直交する傾斜55° の割れ目を止めている。いずれの割れ目にも挟在物は見られず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
130	41.50	44.30	一部の割れ目ないし割れ目ぞいにマンガン鉱染、薄く黒褐色化するが、劣化は伴わない。	41.50	44.30	一部の割れ目ないし割れ目ぞいにマンガン鉱染、薄く黒褐色化するが、劣化は伴わない。	41.50	44.30	41.50～44.30m: 一部の割れ目と割れ目ぞいにマンガン鉱染が見られ、薄く黒褐色化するが、劣化は伴わない。	-
131	42.04	42.04	58° 幅2mm石英脈が母岩に密着して連続。	-	-	-	42.04	42.04	42.04m: 傾斜58° で幅2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-
132	42.08	42.12	42.08m・50°、42.12m・40° の各割れ目に各々、幅2mm灰白色の固結粘土脈、幅2mmにぶい黄褐色の軟弱粘土脈をそれぞれ挟む。	42.08	42.12	42.08m・50°、42.12m・40° の各割れ目に各々、幅2mm灰白色の硬質粘土脈、幅2mmにぶい黄褐色の軟弱粘土脈をそれぞれ挟む。	42.08	42.12	42.08m・50°、42.12m・40° の各割れ目に幅2mmの灰白色の硬質粘土脈、幅2mmのぶい黄褐色の軟弱粘土脈をそれぞれ挟む。	-
133	42.19	42.19	20° 幅1～2mm石英脈が母岩に密着して分布するが、38° 割れ目で切られて不連続となる(変位量は無い)。	42.19	42.19	20° 幅1～2mm石英脈が母岩に密着して分布するが、38° 割れ目で切られて不連続となる(変位量は無い)。	42.19	42.19	42.19m: 傾斜20° で幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	-
134	43.08	43.08	45° 幅8～10mmで淡緑灰色化(緑泥石化)粘土化などの劣化は伴わない。	43.08	43.08	45° 幅8～10mmで淡緑灰色化(緑泥石化)粘土化などの劣化は伴わない。	43.08	43.08	43.08m: 傾斜45° で幅8～10mmが緑泥石化により淡緑灰色化する。粘土化などの劣化は伴わない。	-
135	43.14	43.14	50° 割れ目に幅1～2mmの軟弱な灰黄色粘土脈を挟む。	43.14	43.14	50° 割れ目に幅1～2mmの軟弱な灰黄色粘土脈を挟む。	43.14	43.14	43.14m: 傾斜50° で幅1～2mmの軟弱な灰黄色粘土脈を挟む。	-
136	43.60	43.61	43.60m・60° と43.61m・60° の割れ目に囲まれ、φ2～5mmに細片化～砂状化する。43.60m・60° 割れ目の一部に、灰黄色の幅1mmの固結粘土が付着する。	43.60	43.61	43.60m・60° と43.61m・60° の割れ目に囲まれ、φ2～5mmに細片化～砂状化する。43.60m・60° 割れ目の一部に、灰黄色の幅1mmの硬質粘土が付着する。	43.60	43.61	43.60m・60° と43.61m・60° の割れ目に囲まれ、径2～5mmに細片～砂状化する。上端側の割れ目の一部に幅1mmの灰黄色の硬質粘土が付着する。	-
137	44.01	44.29	硬さDに軟質化し、割れ目の一部は薄く砂状化することが多い。44.12m・50° 割れ目に幅2mm風化、黄褐色粘土脈を挟む。	44.01	44.29	硬さDに軟質化し、割れ目の一部は薄く砂状化することが多い。44.12m及び44.14m・50° 割れ目に幅2mm風化、黄褐色粘土脈を挟む。	44.01	44.29	44.01～44.29m: 軟質化し、割れ目の一部は薄く砂状化する。44.12m及び44.14mの傾斜50° の割れ目に幅2mmで風化し黄褐色を呈する粘土脈を挟む。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
138	44.29	47.37	40～60° 割れ目が主体で平行に分布する。一部ではこれらに斜交する60～80° 割れ目も分布する。上記割れ目と同系の角度で、低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化したり、粘土脈を挟むが、いずれも分布は少ない。ただし、46.53～46.60mは変質粘土化部で軟弱である。	44.29	47.37	40～60° 割れ目が主体で平行に分布する。一部ではこれらに斜交する60～80° 割れ目も分布する。上記割れ目と同系の角度で、低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化したり、粘土脈を挟むが、いずれも分布は少ない。ただし、46.53～46.60mは変質粘土化部で軟弱である。	44.29	47.37	44.29～47.37m: 傾斜40～60° の割れ目が主体で平行に分布する。一部ではこれらに斜交する傾斜60～80° の割れ目も分布する。上記割れ目と同系統の低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化したり、粘土脈を挟むが、いずれも分布は少ない。ただし、46.53～46.60mは変質粘土化部で軟弱である。	-
139	44.49	44.49	50° 割れ目は一部珪化と淡緑灰色(緑泥石化)を伴う。また、微細なφ0.5mm以下の雲母が晶出している。	44.49	44.49	50° 割れ目は一部珪化と淡緑灰色(緑泥石化)を伴う。また、微細なφ0.5mm以下の白雲母が晶出している。	44.49	44.49	44.49m: 傾斜50° の割れ目は一部珪化と緑泥石化による淡緑灰色化を伴う。また、径0.5mm以下の微細な白雲母が晶出する。	-
140	44.91	44.91	52° 割れ目は幅2～3mmの軟弱な明黄褐色(10YR 6/6)を挟む。	44.91	44.91	52° 割れ目は幅2～3mmの軟弱な明黄褐色(10YR 6/6)粘土を挟む。	44.91	44.91	44.91m: 傾斜52° で幅2～3mmの軟弱な明黄褐色粘土を挟む。	-